

国民読書年 2010 に寄せて

愛媛県立図書館長 川崎 清明

「国民読書年 ジャあ、読もう」

今年、2010年は「国民読書年」に当たっている。「じゃあ、読もう」を合言葉として、いろいろなキャンペーンが繰り広げられている。今、求められているのは、ことさら、構えて読み始めるのではなく、きわめて自然に読み始めることなのだと思う。

もとより、人は、心を虜にする書物に出会おうとして、読み始める訳ではない。はじめは、軽い気持ちで十分なのだと思う。しかしながら、繰り返し巻き返し読み込むうちに、あるときには、著者の意図をも越えて何かにたどりつくことになる。ときには、寝食を忘れて一冊の書物との濃密な時間を過ごす。極端な言い方をすれば、自分の血となり肉となった、書物。心身の滋養となるような書物。人は、そのような書物に出会ったとき、至福のときを享受できるに違いない。そして、それこそが、読書の魅力、人類と書物文化との切っても切れない永遠のつながりなのだと思うのである。

「過去に感謝、現在に信頼、未来に希望」

この言葉は、東温市田窪にある「しげのぶ特別支援学校」に伝わる、扁額に記されている言葉である。

とある冊子に紹介されていて、天野貞祐（あまのていゆう）の言葉だと信じていたのであるが、十年ほど前のある日、インターネットで検索したところ、獨協大学のホームページにある、天野貞祐記念館のページがヒットした。

以下にその抜粋を引用する。

（前略）

私は、諸君がこれから大学生として自分はやっていこうという。現在の諸君というもののある場所は、決してただ過去が流れてきたというんじゃなくて、未来をも含んでいるわけであります。現在は過去を含んでおると同時に、未来を宿しているもので、その未来ですね、未来を諸君が考えておられるのは当然だろうと思うんです。

があって、数年前日本に来たこともあるんですが、この哲学者が、人間の存在というのは、現在が過去を含むと同時に、未来を宿しているということから、「過去に対しては感謝、現在に対しては信頼、未来に対しては希望」と。そういうことを言っておるのは非常に興味が深いと思うんです。

諸君も、顧みてみれば、過去は諸君のご両親のお力でもって、こういう大学に学ぶことができると。諸君と同年齢の多くの人たちは苦しい工場に働いたり、商店に働いたりしているときに、諸君は悠々として、どんなにでも勉強できる学園に来て、そして勉強するということは、過去に対してただ感謝あるのみだろうと思うんです。また、感謝がなければならぬと思う。感謝がないところに幸福というものもない。現在はどうかというならば、この学園において、学友諸君と信頼し合い、お互いに信頼をし、教授方の教えを受け、そしてどこまでも自分を磨いていくということが必要だろうと思う。

また未来に対しては、どうかひとつ諸君が未来の青写真を考えてみて、自分はこれからこういうふうにならないう。人間はただ精神だけでなくして、身体を持っているものですから、自分の青写真というものはまず身体から決めていくことが必要だと思うんです。

（後略）

（インターネットホームページ

天野貞祐記念館『獨協大学』より）

「真理は、我らを自由にする」

人間は、過去、現在、未来をつなぐ時空間の中で、読書するのであり、過去、現在、未来とかけ離れた読書はありえないといってもよいだろう。黙々と土を耕し、水をくれた先人たちへの感謝と、図書館に関わるすべての人々への信頼、そして、まだ遇ってもいない未知なる彼らへの連帯を強く希望しつつ、より確かな読書の営みを繰り広げたいものである。

さて、みなさんは、「いつ読み始めますか？」

子どもと本のかけ橋に～子ども読書室 2010

観測記録史上、最も暑い夏となった2010年。

今年度も、県立図書館子どもと本の出会い推進事業、夏の一大イベント「子ども向け講演会」は、松山市出身の絵本作家、山本孝さんをお迎えして開催しました。



山本さんは、高校時代まで松山で過ごし、その後、大阪の専門学校へ進み、卒業後は「あとさき塾」「メリーゴーランド絵本塾」で絵本を学ばれ、現在大活躍中の絵本作家です。

代表作でもある絵本「ちゃんから町へようこそ」にちなみ、「ちゃんから町へようこそ」と題して、ご自身の子どもの頃の思い出や絵本作家になった理由などを話されました。また、新作の読み聞かせもしていただき、和やかな雰囲気では進みました。

後半は、山本さんの指導のもと、お面の製作を行いました。参加した子どもも大人も、楽しいお面作りに熱中していました。

最後は、みんなで記念写真。



作ったお面に、サインもしていただきました。

本の作者を知り、親しみを持つことで、そこから本に対する興味が深まり、読書の幅が広がればとの思いで始まった「子ども向け講演会」ですが、今年度までに6人の方にお越しいただきました。

国立科学博物館の真鍋真博士(17年度・19年度)、北九州市立いのちのたび博物館の上田恭一郎博士(18年度)、児童文学評論家の赤木かん子さん(20年度)、松山市出身で昆虫写真家の新開孝さん(21年度)、そして今年度の山本孝さんです。

どの方も、熱心にそして真摯な態度で子どもたちへ

話をしてくださったことが印象的でした。

来年度以降も、素敵な著者をお招きすることで本に対する興味を持ってほしいと願っています。

子ども読書室では、その他にもさまざまな催し物を行っています。

定例のおはなし会「おはなしだいすき！」(毎月第1・第3土曜日)親子で楽しむ読書教室(全8回)春と秋の読書週間中に行う「たっぷりおはなし会」、愛媛医療福祉専門学校生による「みんなあつまれおはなしの会」(年2回)などは、主に乳幼児から小学校低学年と保護者を対象に、耳から聞くおはなしから本へ誘う催しです。

また、県立図書館の外へ出かけて行う催しもあります。県内小・中・高等学校へ行って本の紹介を行うブックトーク事業です。(年間14回)



事業で行うブックトーク以外にも、依頼があれば可能な限り対応しています。平成21年度は合わせて24校で実施しました。

子ども読書室の担当はわずか3名。平成21年度より3階にヤングアダルトコーナーも開設したので、カウンター業務と読書推進事業との両立は、時に綱渡りのように感じることもあります。

しかし、本に目を輝かせる子どもたちと出会う度、私たちは、子どもと本のかけ橋であることを自覚し、その責任の重さを感じつつ、今日も紹介する本を探すのでした。

(子ども読書係 東 智子)

愛媛プロスポーツアーカイブズを開設しました！

7月1日、県立図書館3階一般図書室内に「愛媛プロスポーツアーカイブズ」を開設しました。これは愛媛県が出資している地域密着型プロスポーツチームの愛媛FC（プロサッカー・Jリーグ）と愛媛マンダリンパイレーツ（プロ野球・四国・九州アイランドリーグ）を紹介する常設コーナーです。以下、このコーナーについてご紹介いたします。

1 概要

このコーナーでは、両チームに所属する選手・スタッフなどについて書かれた出版物と、両チームの刊行物を収集し公開しています。特に書店では一般に流通していない刊行物の収集に重点を置いています。また、両チームのホームゲームの試合結果一覧や地域貢献活動などの情報を、コルクボードを使って紹介しています。



2 コーナー設置のねらい

このコーナー設置のねらいとしては大きく以下の3点があります。

1) 図書館のさまざまな機能についての情報発信

図書館には趣味や教養のために本を貸し出すというよく知られた機能以外にも、地域の多様な資料を収集し保存する機能や地域の課題解決に役立つ情報を提供する機能、県外に地域の情報を発信する機能など、さまざまな機能があります。こうしたさまざまな機能について、このアーカイブズをきっかけに知っていただきたいと思います。

2) 県の施策の推進

愛媛県は地域密着型プロスポーツを支え育てることによる元気ある地域づくりを目指しています。そして愛媛県と県内の全市町は両チームに対して出資しています。県立図書館としても、両チームの活動状況や経営状況に関する情報を積極的に提供することで、県政の一翼を担う施設としてこの施策を推進します。

3) 地域・地域経済の活性化支援

地域密着型プロスポーツチームに関する情報を公開することで、県民の皆様に理解を深めていただき、実

際にスタジアムに足を運んでいただいたり、ファンクラブや後援会へ加入していただいたり、ボランティアとして試合運営に参加していただいたり、チームの地域貢献活動と一緒に活動していただいたりすることで、地域や地域経済の活性化につなげていきたいと思っています。

3 開設記念「愛媛のプロスポーツ展」

コーナー開設を記念して7月1日から8月29日まで、企画展「地域と共に栄光をつかめ！愛媛のプロスポーツ展」を開催しました。両チームやスタッフの方から出品していただいた貴重な品々や写真で両チームのこれまでの歩みを振り返る内容で、多くの方々に足を運んでいただきました。

またプロスポーツアーカイブズの趣旨にご賛同いただいた愛媛FCのサポーターの方々から、JFL時代のものを含む貴重な出版物やグッズをご寄贈いただきました。両チームの出版物の収集状況は愛媛県立図書館愛媛プロスポーツアーカイブズのページなどで公開していますので、もし未所蔵の資料をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ご寄贈いただくか、複製物を作成のため一時借用させていただきますようお願いいたします。また、両チームのサポーター・後援会活動などで刊行物を作成されましたら、バックナンバーも含めてご惠贈くださいますようお願いいたします。

4 今後の展開

愛媛プロスポーツアーカイブズでは今後、ミニ展示や収集した資料を使った県外の図書館との交換展示などを予定しております。このコーナーは両チームと県民の皆様とともに作り上げていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（相談係 天野 奈緒也）

「図書館でできる！小論文のネタ探しセミナー」

子ども読書活動の推進の一環として昨年度から「図書館でできる！小論文のネタ探しセミナー」を実施しています。これは、小論文についての学習を希望する高校生を対象に行っているものです。

セミナーの内容は、小論文についての説明や、小論文のための本探し、小論文を書く準備のためのワークショップ、図書館で済ませる情報集めの方法などです。2時間の内容ですが、集中力を持続してもらうために講義を一方的に聴くだけでなく、館内で実際に本を探してもらったり、ワークシートに記入してもらったりと変化をつけた内容にしています。

小論文とはどういうものをいうのかについて簡単に説明し、実際に本から文章を抜き出して小論文というものがどのような構成になっているのか、受講される皆さんに知ってもらっています。また、なぜ、小論文を書くために本が必要なのかといったことや、本を利用してインターネットをより効率よく使う方法、本から情報を探すためには本をどこから見たらよいか、実際に図書館で本をどのようにして探すのかといったことも説明もしています。

受講される方々の大半は当館を利用したことがあまりないということもあり、本がどのような場所にあるかを簡単に案内しています。これは、セミナーの後半で実際に小論文の書く内容を書いてもらうために自分で本を探しに行ってもらうために前もって場所をしていただくためです。

これまでにいろいろな高校生が参加してくれました。この秋に推薦入試で小論文が必要だという3年生や、時間の余裕があるうちに小論文について勉強しておこうというしっかりした2年生といったように。南予からこのセミナーのために参加してくれた高校生、島から来てくれた高校生がいるなど遠隔地からの参加も結構多いです。また、昨年度は学校図書館支援員の方々が勉強にとセミナーを受講してくださいました。

クラス単位で受講して下さることもあります。受験に対する意識付けにと2年生のときに受講されています。セミナーでは生徒さんがどう思っているのかわからなかったのですが、あとで引率の先生からお話を伺うと「小論文について考える機会が持てたのはよかった。」という感想を話してくれた生徒さんもいたそうで、セミナーを実施する側としてはとてもうれしい限りでした。

ある学校の生徒さんは2年生の時だけではなく3年生になり実際に小論文が必要になったからというので、また受講してくれました。

皆さん熱心に参加しておられ、セミナーの実施にも

おのずと熱が入ります。セミナーでよく驚かれるのが、白書の紹介をしたときです。皆さん白書が小論文に役立つとは思っていないようです。白書は、世間で問題になっていることについて、わかりやすく説明されているものが多いです。また、インターネットで見ることのできる白書もあることを紹介し、インターネットを使用した情報検索にはまず官公庁のHPなどの信頼のおけるHPをあたることも大切だと説明することもあります。受講してくれる高校生の中には白書を実際に見る機会のない方もおいでのようで、「知らなかった。」と言って休憩時間に「白書を見せてください」とわざわざ見に来たこともありました。

また、子ども用の本から読んでいくという話も最初は驚かれます。子ども用の本はその道の専門として定評のある方が著者であることが多いこと、わかりやすく書かれており最後まで読むことができること、最初は基本的な知識を得て、そこから大人向けの本を読んでいくことなどを説明していくと皆さんよく理解してくださいます。

このセミナーを受講していただくことで、小論文を書く手助けになればと思います。今後も継続していく予定です。当館では、夏休みが受講していただきやすいと考えて、8月にセミナーを開催していますが、土日祝日以外の開館日であれば、セミナーの開催は可能です。セミナー開催日程で他に実施してほしい等のご要望がありましたら承ります。また、ご希望がございましたら、学校単位での受講も可能です。お気軽にご相談ください。



(相談係 津田 朋美)

質問にお答えします～レファレンス

レファレンス（reference）とは
情報を求めている利用者に対して、図書館員が提供
する個人的援助。
利用者の質問に対して、回答となる情報そのもの
を提供したり、回答の含まれる情報源を指示・提供す
ること（『図書館用語集三訂版』より）
レファレンスの例

- 「○○協会の住所が知りたい」
- 「愛媛県の移民の資料はないですか」
- 「○○という漢字の読み方を知りたい」

疑問に思ったこと、知りたいことを図書館員にたず
ねること...それがレファレンスです。

このレファレンス・サービス。図書館員は、どのよ
うにして調査、回答しているのでしょうか。今回は、
これまでの記録を通してご紹介します。

問1 浦島太郎に出てくる乙姫の姉の名が「えひめ」 というのは本当ですか

まず「浦島太郎」について研究している資料を探し
ます。『浦島太郎の文学史』（五柳書院 1989年）に
は出てきません。『日本説話伝説大事典』（勉誠出版
2000年）で「浦島太郎」を引いても話の内容がわかる
だけで、「おとひめ」「えひめ」の項目はありません。

次に『日本の神仏の辞典』（大修館書店 2001年）
を調べると、「おとひめ」の項目があり、末娘と妹姫
のことを呼ぶとあります。しかし「えひめ」の項目は
ありません。

『日本国語大辞典』（小学館 2001年）で「おとひ
め」を引くと、反対語として「えひめ」が出ています。
「えひめ」の項目を引くと、「おとひめ（弟姫・乙姫）」
の姉が「えひめ（兄姫）」ということが分かります。
よって回答は「乙姫」とは妹の呼び名なので、対応す
る「兄姫（えひめ）」がいる可能性はあります。しか
し、浦島太郎に出てくる乙姫に姉がいて、その名が「え
ひめ」であることを直接示す文献は見つかりませんで
した。となりました。

問1で出てきた『日本国語大辞典』を使ったレファレ
ンスには、こういったものもありました。

問2 時計の分の読み方は「ふん」と「ぶん」の2種 類ありますが、どう使い分けるのでしょうか。

『日本国語大辞典 第2版』で『分』（ぶん）の項目
を確認すると「単位の名称。促音・撥音に続くとき「ぶ
ん」となる。」とあります。

念のために、『日本語発音アクセント辞典 改定新
版』（日本放送出版協会 1985年）でも「分」を引きま
したが、同様の解説でした。

よって回答は促音・撥音に続くときは「ぶん」、それ
以外は「ふん」となりました。



レファレンスを調査していると、様々な資料に出会
います。

明治・大正期の観光情報を調べるべく、『北条と鹿
嶋』（北条と鹿嶋発行所、1926年）を読んだことがあ
ります。同地の宣伝の本ですので、市街地の紹介から
始まり、人柄や交通案内、神社仏閣に名所旧跡と、当
時の状況を調べるにはいい資料です。

問題があるとすれば、あまりに美文であることです。
P31 から 32 を引用します（旧漢字・仮名遣いは新式
にしてあります）。

「夕波の訪れる頃ともなれば夕波岩に崩れて雪の泡沫
となり泡沫あれば夕陽当って七彩の虹となり浪の音は
自然を賛美する無限の曲を奏でるのである。夕陽既に
没するに至れば東方に美しい反射を放っていた野も山
も天も地も徐々に夜の幕に閉ざされて西空の紅の色も
消えてしまうのである。その頃大空を横切る一條の銀
河には織姫が恋路の船を浮かしめ夏の涼しい影は鹿島
にやどるのである。げに飽かぬ眺めは此の鹿島であ
る。」

「こんな暑い場所（図書館）じゃなくて涼しい影が
やどる鹿島に行きたい」と思うこと数日。月曜日に、
本当に鹿島に行ってきました。大正時代ほどではない
でしょうが、本当に涼しげで美しい眺めでした。

（図書整理係 白石 直美）

子育て支援情報コーナーがリニューアル！

子育て支援情報コーナーができて3年がたちました。当初は、子育てに関する本を一般図書のコーナーと書庫から引っ張り出して並べた、なんとなく寄せ集め感のある棚でした。

現在は、蔵書数も2千冊を越え、資料も新しく入れ替わり、貸出し冊数も増えてきました。子育て中のお母さんお父さんだけでなく、幅広い年齢層の方に利用していただいています。



「出産・育児」
「子どもの病気・
こころの問題」「園
や学校での生活」
「親子問題」「家庭
教育」「児童福祉」
...と書くと、なん
だか固そうな本ば
かり？と思われそ
うですが、そんな
ことはありません。
軽い内容のものか
ら重い内容のもの

まで多数取り揃えています。

そしてこのコーナーが、今秋リニューアルしました。

場所は今までと同じですが、書架がスチールから暖かみのある木製に変わりました。今年度中には、蔵書

「赤ちゃんにすてきな名前をつけたい」「離乳食の作り方がわからない...?」「入園・入学の準備品は...?」「子どものアレルギーについて知りたい」.....このような悩みが出てきた時には、ぜひ、3階一般図書室、子育て支援情報コーナーにお立ち寄りください。多くの皆様のご利用をお待ちしています。



(相談係 齋藤 桂子)



愛媛県立図書館の利用案内

【開館時間】

火曜から金曜...午前9時40分から午後7時まで
土・日・祝日...午前9時40分から午後6時まで
子ども読書室...午前9時40分から午後5時まで

【休館日】

月曜日(祝日の場合は、直後の平日)
年末年始(12月29日～1月3日)
特別整理期間(10日以内で館長が定める日)
館内整理日(毎月末日、ただし、その日が上記休館日、土・日曜日に当たるときは館長が定める日)

【駐車場】

図書館専用の駐車場はありませんが、**県庁西駐車場**(旧国際交流センター跡地)をご利用できます。ただし、駐車台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関のご利用をお願いします。

【付近略図】



編集・発行 愛媛県立図書館

〒790-0007 松山市堀之内
TEL 089-941-1441(代表) FAX 089-941-1454
<http://www.ehimetosyokan.jp>
e-mail: tosyokan@pref.ehime.jp(代表)